

文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」地域別意見交換会
「東北地区」平成20年2月19日（火）仙台

薫風・満天フィールド交流塾が育む人間力
～遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶ～
(秋田県立大学)

事例紹介内容の骨子

1. 秋田県立大学の学部・学科構成と各キャンパスの位置

《大学紹介パンフレット「いろいろな自分を見つけよう」で説明》

2. 薫風・満天フィールド交流塾プログラムの提案の背景

1) 生物資源科学部アグリビジネス学科（平成18年発足）

それ以前は、秋田県立大学短期大学部、秋田県立農業短期大学
教育重視の風土、「耕学一如」、文部科学省GPに3度応募

2) 学生支援GP（学生の人間力を高め、人間性豊かな社会人育成）へ応募

私たちは何をやり、何を知り、何を持っているか

①作物栽培サークルへの支援

《論文「作物栽培サークル「畑っこ」と農業教育」秋田県立大学短期大学部紀要第2号(2001年)で説明》

- ・自主性の大切さに気づく、自分を見つめる、などの教育力を農業やサークルは持っている、ということを知っている
- ・学生と教員の距離が近い、という伝統を持っている

②地域による農業教育の導入

《論文「地域と取り組む農業教育」秋田県立大学短期大学部紀要第3号(2002年)で説明》

- ・職業観、農家や農村生活への理解（社会性）を地域は育むことができる、ということを知っている
- ・学生と交流していただける地域の農家を持っている

3. 薫風・満天フィールド交流塾プログラムの内容

《PDFファイルA 「薫風・満天フィールド交流塾」で説明》

4. 薫風・満天フィールド交流塾の活動状況

《PDFファイルB 「薫風・満天フィールド交流塾」の活動状況で説明》

PDFファイル A 「薫風・満天フィールド交流塾」

文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

薫風

満天

～遊びと農業の教育力が若者と社会を結ぶ～

フィールド交流塾

Kunpu-Manten

Akita Prefectural University

<http://www.akita-pu.ac.jp/kunpu-manten/>



公立大学法人
秋田県立大学
Akita Prefectural University

学生の人間力向上のために

薫風・満天 フィールド交流塾

選定

秋田県立大学が提案する大学の資源を活かした「薫風・満天フィールド交流塾」という取組が文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（学生支援G P）に採択されました。学生支援G Pというのは、大学改革のための優れた取り組みとして、文部科学省が選定するものです。

遊 び を 起 点 に ———— 自然・農業・農村

本取組は、若者の人間力向上という社会的要請に応えるため、自然との交流（遊び）と農業の教育力を活かした学生支援を行い、行動力と創造力に富み社会性豊かな人材を育てようとする取組です。その特徴は、豊かな自然、農業・農村、それらを教育研究している多様な教員を資源とした「薫風・満天フィールド交流塾」を開設することです。この「薫風・満天フィールド交流塾」では、様々な動植物に触れ自然のなかで遊び、農業を体験することで、感性、探求心、コミュニケーション力、行動力および創造力を培うことを期待しています。

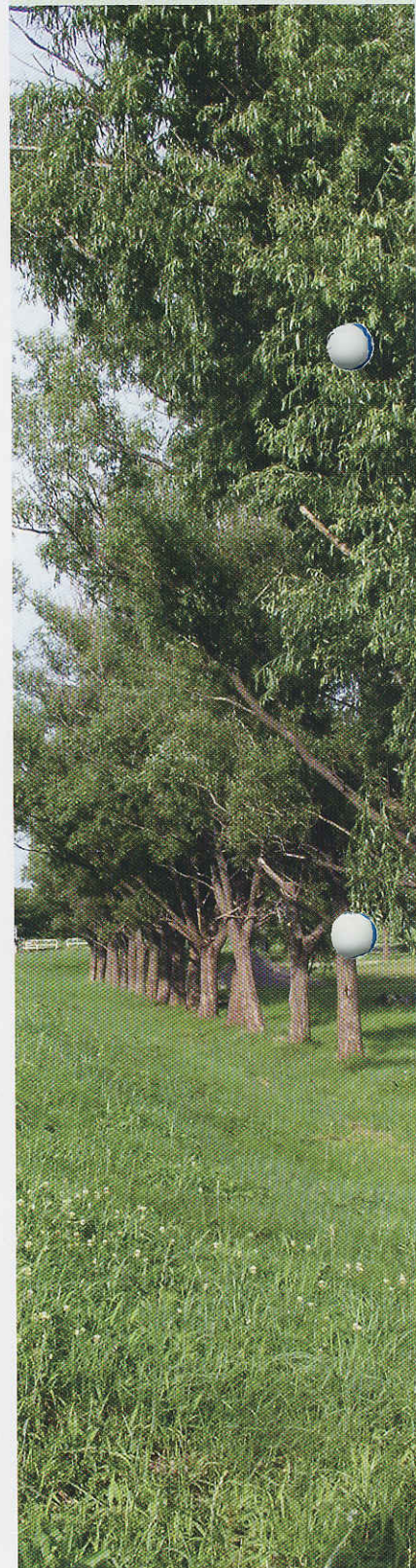
また、本取組では、学生が農村に出て地域の人々と生活や作業を共に行う中で、農村の伝統や文化に触れながら、思いやりの心、達成感、協調性を育み、農村生活への理解を深め、社会性の向上につながる機会の提供も計画しています。

本取組での体験は、学生の学修への動機づけを明確にし、本交流塾と学修の相乗効果によって、本学の目指す人間と生物資源との関わりを理解し、未来を逞しく切り拓く人材が育つものと期待しています。

■取組の趣旨・目的

現在、意欲・活力のない学生等が増加しているといわれる背景には、最近の就業環境や経済環境の悪化という社会的状況もありますが、むしろ、かつては当然であった“遊び”の機会、即ちその過程で感動や発見、挑戦などを体験し、結果として行動力、創造力や社会性を身につける場面が少ないことが起因になっていると考えられます。

本取組の趣旨は、学生に体験を経て醸成される活力や豊かな感性、主体的な行動力を身につけられるよう支援することです。本学には約200haの圃場と動植物資源や諸施設を擁する「フィールド教育研究センター」があり、広い農村も近在しています。これらの農業・農村、生物、自然環境の持つ教育力と「フィールド教育研究センター」の地域交流機能を有機的に活用し、学生がいつでも自由に“遊び”を起点として自己啓発ができる場と支援体制を「薫風・満天フィールド交流塾」として構築し、「見る」、「体験する」、「交流する」、「考える」、「行動」することを通して、問題意識やコミュニケーション能力の向上を図り、意欲的で人間力を備えた若者を育成することが、本取組の目的です。



本 取 組 の 計 画

薫風・満天フィールド交流塾には北東北の豊かで厳しい自然の春夏秋冬があり、多様な専門と特技を持つ教職員や地域のサポーターがいます。そして、交流塾の核となるフィールド教育研究センターには「教育実践エリア」、「農村環境・生態系保全エリア」、「地域交流エリア」、さらに「アグリビジネスエリア」が整備され、圃場・温室・水路、ビオトープ、交流農園や動物広場など、機械設備を含めるとひとつの農村集落とも言える環境がつけられています。すなわち、ここには学生が“遊び”を起点として自由な発想でやりたいことが出来る素地が幅広く揃っています。

学生たちはここで様々な“遊び”を通じて行動力、創造力、社会性を高めることができます。また、「人間力」を高めた若者が、農業系サークルの大学間ネットワークを構築し、そのネットワークを基盤として「全国農業・農村学生フォーラム」を開催することで、活動成果を社会に発信し、自信を持って社会に船出することが本取組の最終目標です。



図 1. 本取組の全体像

■学生の“遊び”を起点とした活動を実現するための多様なメニューと人間力の涵養 (図1)

薫風・満天フィールド交流塾では、学生が“遊び”の多様なメニューを整え、自由な発想に基づく“遊び”と“学び”を支援します。メニューは、四季折々の自然や生き物に接するものをはじめ、作物栽培や家畜の飼育、食品加工や食文化、伝統工芸や郷土芸能など農村文化に関わるものを具体化し、参加者を募り、場所、指導者、道具、材料などの面で支援する計画です。また、メニューについては学生の要望に加え、教職員や地域住民の意向も反映することになっています。実施には、学生の主体性を尊重し、平日の放課後等は自主的な活動、休日は教職員や地域住民なども含めたグループ活動が中心となります。

本取組では、“遊び”の発展モデルとして3段階を想定しています。第1段階では、物事に感動する感性、発見する喜びや達成感、挑戦心や行動力が養われること。第2段階では、1年目の参加者に対するサポート、子供のプレーリーダー役や地域住民との対応、他大学との交流など運営を補佐する役割を担い、組織運営やマネジメント能力、リーダーシップなどの資質が養われること。第3段階では、それまでの過程で得られた感性や人間力を、勉学や就業、社会との関わりなど自身の将来性に活かしていくことです。なお、このような活動は、メンタル面のカウンセリング機能を補完し、加えてリフレッシュの機会を提供することにもなります。

■本取組の年次計画 (図2)

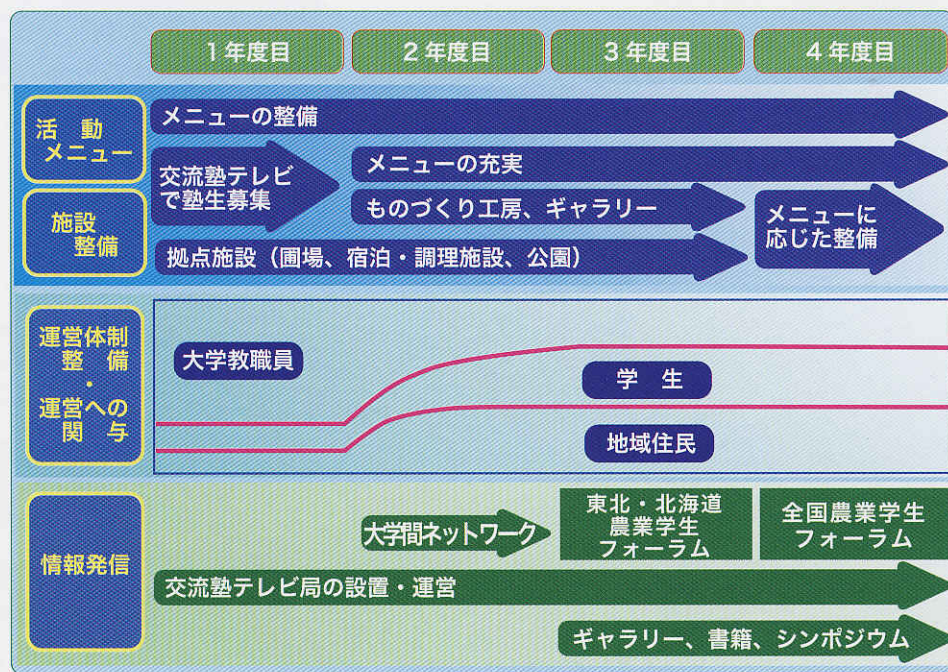


図2. 本取組の年次計画

初年度は学部教職員中心の運営体制をとり、活動メニューは活動支援チームが作成する計画です。また、学生向けの広報と情報発信のために「交流塾テレビ局」を開設し、施設面では調理機能等を整えることにしています。

2年度目は、支援教職員数を増やし、前年度からの塾生も塾の運営を補佐する役割を担うこととなります。また、大学間ネットワークづくりを開始し、活動メニューは塾生の主体的活動により充実させる予定です。施設面では、ものづくり工房や交流塾ギャラリーを整備することになっています。

3年度目は、塾の運営において可能な部分を塾生に委ね、学生の主体的活動活動へ重心を移しながら、大学間ネットワークの効果でさらに活動内容を充実させる計画です。ここでの大きな目標は、東北・北海道農業・農村学生フォーラム(仮)を開催すること、交流塾ギャラリーによる情報発信を開始することです。また、活動成果の刊行準備も予定しています。

4年度目は、大学間ネットワークと情報発信の総括的な位置づけともなる全国農業・農村学生フォーラム(仮)の開催を目指します。また、活動成果を刊行するとともに、成果の公表と総括を目的としたシンポジウムも開催する計画です。